

# 地域医療学

## 1 構成員

	平成20年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	1人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	2人

## 2 教員の異動状況

山岡 泰治（特任准教授）（H19. 10. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

## 4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

## 5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (50万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

### (5) 受託研究または共同研究

山岡 泰治(代表者) 受託研究 「中東遠地域医療提供体制構築調査研究」 50万円

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 中東遠地域における集団災害発生時の連携体制の構築に関する研究

突発的な災害の発生に対して限られたマンパワーや医療設備・資機材を使って効率的かつ適切な医療サービスを提供するためには、有機的に連携できる人および組織の整備が欠かせない。さ

らに、こうした連携体制を構築するにあたっては、中東遠地域において想定される集団災害である東海地震に対応する体制と原子力事故に対応する体制の両者について整合性・統一性を確保することが大切である。

現在、こうした観点に立ちながら、研究対象地域の医療資源等の特性を踏まえてデータベース、テキスト、カリキュラムなどの環境整備を進めているところである。その上で、関係機関の連携強化策の提言やツールを活用した啓発活動を行うことによって、より実効的な連携体制の確立と即戦力となる専門家育成を目指している。

## 2. 中東遠地域における日常医療の提供体制の構築に関する研究

中東遠地域においては、医師数が全国比（人口10万人当たり）の6割弱であり、また医療提供機能の大半を公立病院が担っており、公立病院の勤務医不足が深刻化している。研究対象地域の公立病院について文献および訪問調査に基づく要因分析を行い、こうした勤務医不足が病院の安定的な運営にとって大きな障害になっていることを明らかにした。

現在、研究対象地域における将来の患者動向に関するシミュレーションを行い、その結果をもとに病院運営の安定化に向けた連携体制のあり方などについて検討を進めているところである。

こうした集団災害および日常医療に係る体制に関する研究は、地域の知的拠点であり、また災害医療の中核的立場ならびに地域医療の指導的立場である本学が、地域の求める専門人材育成や安全・安心な社会形成に貢献することに繋がるものである。

## 15 新聞、雑誌等による報道

1. 「医師不足…災害時どうする 中東遠医療事情 浜松医大が調査」静岡新聞 2007年10月4日
2. 「集団災害へ独自対策を 浜医大・中東遠医療調査」静岡新聞 2007年11月19日
3. 「地域医療再生の処方せんは」SBSテレビ 2007年12月12日